

日本のスポーツ界の将来のために尽力しています！

法科大学院で学ぶということ

子どものころ、家族が弁護士に救ってもらった経験から、自分も人を救いたいと弁護士という仕事に興味を持つようになりました。ただ、大学受験は思うようには行かず、政治経済学部に進学しました。また勉強する時間が無くなるかと迷いましたが、日本一を経験したいという気持ちから、高校から始めたラグビーを大学でも続けようと、ラグビー部に入部しました。練習は大変厳しかったですが、大学では4年間で3度の日本一を経験することもでき、ラグビー漬けの毎日を過ごしました。

このような大学生活を送っていたものの、弁護士になるという目標は変わらず、法科大学院へ進学しました。ただ、入学当初は、正に法律のことは何もわからない初学者でした。

最初の授業で、先生から「知っている法律の名前を言ってみなさい。」と質問され、「憲法、民法……以上です。」と答えたところ、クラスが静まり返ったことを覚えています。

そのようなスタートでしたが、先生や仲間にも恵まれ、勉強に励むことができました。法科大学院は、様々なバックグラウンドの学生が、司法試験という目標に向かって切磋琢磨できる場だと思います。私のような初学者から、法学部を飛び級で卒業した学生、社会人経験のある学生等が、日々議論をしながら学ぶことができるのは非常に良い経験でした。最初に基本的な事項を丁寧に学ぶことができ、とても良かったと思っています。



今の仕事を選んだきっかけ

スポーツを専門とした弁護士になりたいという夢があり、スポーツやエンターテインメント業務を取り扱う今の事務所に入所しました。現在は、企業法務、訴訟に加え、スポーツに関連する案件を担当しています。また、事務所の仕事に加え、縁があってスポーツ庁でも非常勤で勤務しており、スポーツ専門弁護士を目指し、日々精進しています。

仕事の魅力

弁護士という仕事の魅力は、自分のやりたいことができる機会があることだと思います。私は現在、日本版NCAA（大学スポーツを統括する組織です。）の設立に関与し、各大学、部活、競技団体との利害関係の調整や組織設計、各種ガイドラインの策定、学業充実のための方策の検討といった大学スポーツの改革に取り組んでいます。日本版NCAAは、10年後の日本のスポーツ界を担う組織になると思いますし、その礎をしっかりと作りたいと思っています。

日本のスポーツ界の将来のための重要な仕事ですので、プレッシャーもありますが、とてもやりがいがあります。

このように、法律とは一見縁遠い分野に見えても、弁護士が関わることで、より良い社会に変えていく機会には必ずあると考えています。

法曹を目指す皆さんへのメッセージ

一度きりの人生ですので、何事にも積極的に挑戦していただきたいと思います。挑戦の過程で成功も失敗もたくさんあると思いますが、それでも積極的に挑戦することで、きっと最終的には結果が出ると信じています。

活躍の場は無数にあると思いますし、各人に合ったやり方で挑戦を続けていくことが大切なことだと思います。

04 小塩 康祐

現在の仕事内容

大学スポーツの統括組織の創設に向けたスポーツ庁での仕事

スポーツ関連団体の法令遵守体制の確立など

- 2008年 早稲田大学政治経済学部卒業
- 2011年 早稲田大学法科大学院修了
- 2013年 弁護士登録
- 2014年 TMI総合法律事務所

